

各都道府県連盟 殿

PD各ブロック 殿

チェアパーソン・スクルティニア資格保持者 殿

(公社)日本ダンススポーツ連盟

競技本部長 山口 剛

競技部長 蒲生 志津雄

「公認競技会でのトラブルと問題点の対応について」

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて最近、公認競技会での「採点集計トラブル」と「リアルタイム使用時の問題点」が少なからずみられるようになりました。

そこで、競技本部合同会議にて、各事例を検討協議し対応策をまとめました。

つきましては、チェアパーソン・スクルティニアはもとより、競技会担当役員に周知徹底して頂きますよう、お願い申し上げます。

1、一部の審判員が揃わず競技開始できない(審判員がトイレや私用で所在が不明である)

- 1) チェアパーソンは、競技開始時刻に遅れた審判員がいた場合、当該審判員が遅れた種目、或いはその予選の採点を没収することが出来る。但し没収した経緯は審判長に報告する。
- 2) 審判長の務めとして、審判員の集合と確認を取るのセオリーである。

2、審判員の採点ミス(所定のUP数と異なる。UP数に過不足が出た場合)

チェアパーソンの責任において下記の判断を下し、審判長にも報告する。

- 1) 基本的対応として、その種目の競技終了直後、速やかに当該審判員へ確認と訂正を図る。時間経過によっては、その種目の採点を没収することが出来る。再競技は極力避ける。
- 2) リアルタイムの場合、正しいチェック数でないと送信できないが、端末異常等も含め送信ミスは没収とする。時間経過によっては、次の種目も没収となることがありうる。

3、「リアルタイム支援システム」トラブルと注意点【最近システムを導入したところは特に注意】

- 1) PCオペレーターが、モニターを十分に注意、確認せず、次に進めてしまう。
リアルシステムの場合「採点結果入力完了の確認を取ること」は大変重要である。
- 2) 次の種目が始まらないと送信ボタンを押さない審判員には、速やかに押すよう注意する。
- 3) リアル端末のトラブル(入出力のトラブルや電波状況での送信不能トラブル)
STの素早い判断と的確な対応が重要。状況によりスタートを遅らせるなどの措置も必要。

4、その他

- 1) UP数の最終確認途中で、次の種目(競技)の音楽が始まり、審判員、STが慌ててしまう。
競技開始前に、CP, ST, 司会, 音響等で進行方法を決めておくことが必要である。
- 2) インターバル(休憩)後の競技は、開始予告を入れスムーズな競技進行に努める。
- 3) JDSFホームページ掲載の「審判員心得」を大会役員は理解しておくことが望ましい。
- 4) 審判員が、交通事情等で遅れた場合、所定数を減じた偶数で実施しても問題はない。